

平成 22 年 5 月 21 日現在

研究種目：若手研究 (B)
研究期間：2007～2010
課題番号：19730378
研究課題名 (和文) 日本における高齢者福祉実践者の「実践知」形成過程に関する仮説的研究

研究課題名 (英文) A Study of Care Worker's "Theory in Practices" Formative Process

研究代表者 齋藤 征人 (SAITO MASATO)
帯広大谷短期大学社会福祉科・専任講師
研究者番号：90364132

研究分野：社会福祉学
科研費の分科・細目：社会科学 社会学 社会福祉学
キーワード：社会福祉 高齢者福祉 実践モデル 実践知 M-GTA

1. 研究計画の概要

本研究においては、高齢者福祉実践の経験が豊富な介護福祉士等を対象として、高齢者やその家族との関わりやそこでの自らの変化、両者の相互作用等について聞き取り調査を行い、日常の実践をどう意識化し、経験則を見出すなどして、一般化・理論化につなげてきたのか、そのプロセスを仮説的に明らかにすることを目的とした研究である。

2. 研究の進捗状況

平成 19 年度は、介護福祉士等 7 人に対して半構造化インタビューによる聞き取り調査を行い、これと並行してヴァリエーション豊富なデータから順に M-GTA によって分析を開始した。

平成 20 年度は、前年度のデータ収集と分析に続いて、5 人に対する聞き取り調査（追加データの収集）を行った。また、分析経過についてスーパービジョンを受けた。さらに、前年度収集したベースデータと当年度収集した追加データをもとに、追加データを分析し、理論的飽和化に達した。

平成 21 年度は、生成したグラウンデッド・セオリーのストーリーライン及びプロセス図に関する意見を調査協力者に求めたり（メンバーチェック）、M-GTA による研究経験者等によるスーパービジョンを受けたりするなどして、グラウンデッド・セオリーの信憑性と質を確保した。

平成 22 年度については、これらの調査・分析結果をまとめ、印刷・製本し、年度内に公表することとする。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) 平成 21 年度までに実施予定の調査及び分析は既に終えており、分析結果についてもメンバーチェックやスーパービジョンを受けることによって、信憑性の高いものとなったため。

今年度予定している研究成果の公表のための資料整理と、論文執筆の作業が、当初の想定より 3 か月程度遅れているため、作業を急ぎ、年度内には成果を公表できるようにしたい。

4. 今後の研究の推進方策

本研究は、今年度で終了する予定である。研究成果公表のための作業を急ぎ、年度内には成果を公表できるようにしたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕